

農業技術センターニュース

目 次					
	施設イチゴにおける ヒラズハナアザミウマの被害解析	…1		土佐文旦の長期貯蔵試験	…4
	白未熟粒の発生の少ない和高IL系統 (コシヒカリ準同質遺伝子系統)の特性	…2		土佐文旦のアミノ酸含量は 貯蔵中に变化する	…5
	オランダと高知のハウス温度管理法の比較	…3		今年度の研修生を紹介します！	…6

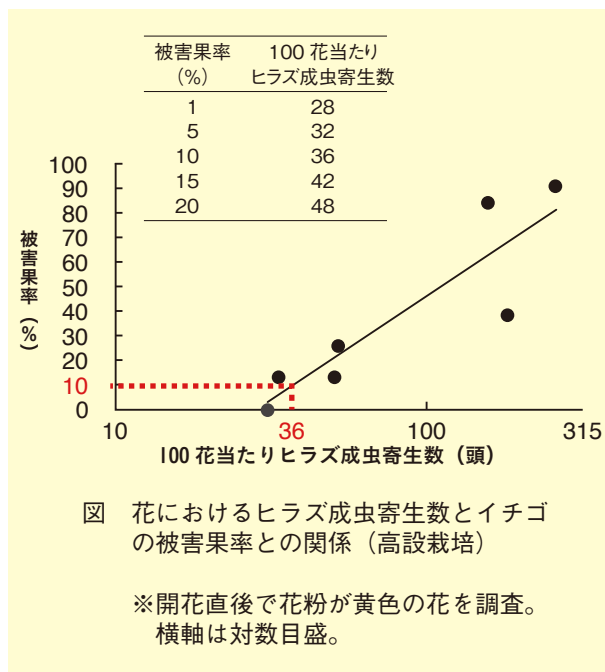
施設イチゴにおける
ヒラズハナアザミウマの被害解析

写真 イチゴの花に寄生するヒラズハナアザミウマ

ヒラズハナアザミウマ（以下ヒラズ）は、イチゴの花や果実を食害し、果実の褐変や着色不良などの品質低下を引き起こす害虫です（写真）。しかし、本種に対して防除の要否を決める判断基準は明確でなく、薬剤散布が遅れて大きな被害が出る場合があります。

そこで、施設イチゴの開花時におけるヒラズ成虫の寄生数と収穫時における被害果率との関係を調べました。

その結果、100花当たりのヒラズ成虫寄生数とイチゴの被害果率の関係は、回帰式より32頭で被害果率5%、36頭で10%、48頭で



20%でした（図）。したがって、例えば被害果率を10%以下に抑えたい場合には、100花当たりヒラズ成虫寄生数が36頭に達する前に防除を行う必要があります。

センターでは天敵の利用についての研究も進めており、今回のデータを参考にして総合的防除法を開発していく予定です。

（昆虫担当 安達鉄矢 088-863-4915）